

## 仙人通信 162 妙法ヶ岳(1329m)

妙法ヶ岳は、秩父三峰神社から雲取山へと繋がる尾根筋にあり、雲取山・白岩山とこの妙法ヶ岳をもって秩父三峰山と呼ばれている。この妙法ヶ岳は、三峰神社の奥の宮でもある。秩父市から国道140号を山梨に向かい、大滝村の秩父湖で秩父往還と別れて三峰神社と書かれた道標に従い、神社前の駐車場に車を置いてのピストンである。

駐車場から階段を上り土産物の売店を左手に見て、直径50cmもある太い檜林の間の道からのスタートだ。整備された林道右手の崖下には、シャクナゲが整然と植えられているも、この一帯は植林された檜林で日の光も入らず、マムシグサが実を付けているのみだ。

20分で霧藻ヶ峰や雲取山とのコースの分岐点にある奥の宮の鳥居を潜って、尾根に向かって九十九折を進む。マムシグサに混じりスミレサイシンも目に入る。白い石灰岩と檜の根が目立つも整備されたコースである。10分程でベンチや道標が整備された尾根道となる。

東側は大トキ沢でサワグルミやブナ等の落葉樹林となり、梢の間から秩父御嶽山が望める。コースは尾根の東側を捲くように緩やかな下りとなり、10分程で休憩用の四阿のある霧藻ヶ峰方面との分岐である。周囲には白いヤマジノギクや紫のトリカブトが咲き誇り迎えてくれ、又遠くには妙義山も望めるポイントだ。ここから先の尾根は狭くなり、取付られた手摺を使っ

てのコースとなる。近くの崖は、厚み10cm程の水平の岩盤の板状節理が見事だ。山頂の石の祠が見える地点からは、チエンを手繰り石段をつめる。狼の狛犬が置かれた祠の横に妙法と書かれた山頂を示す石だ。スタートから65分で山頂へ到着だ。社の左奥には、大正14年にここを訪れた秩父の宮の登頂記念碑だ。そして足元ではホツツジが薄いピンクの可愛い花を付けて迎えてくれ、嬉しさが込み上げた。

山頂の地面に地図を広げ、コンパスを宛がい周囲の山の確認だ。南側の雲取山は雲に覆われ望めないも手前の霧藻ヶ峰が。西側には雁坂嶺・笠取・唐松尾山そして和名倉山である。祠の後ろの北側では、前面に御岳山・四阿山・両神山が、その先には妙義山・赤久縄山・御荷鉾山・城峰山等の登った事のある山々が確認できた。東側は木々で何も望めず残念……。雲の流れを眺めしばし休憩後、登って来たコースを土産物店まで戻り、三峰神社の遥拝殿から秩父の山を望んだ後に、この地にゆかりのあるヤマトタケルの銅像や茂吉・雨情等の句碑や歌碑を眺め、奥にある本殿に10年ぶり礼拝させて頂いた3時間強(13000歩)のノンビリと歩けた山登りでした。(余計事ですが、小生の住む座間市にも三峰神社の末社があり、掲げてある由緒書には「三峰山」(雲取山・白岩山とこの妙法ヶ岳)とあります。(h29. 9. 14)

山頂の祠



山頂から北側展望



日本武尊の銅像

